

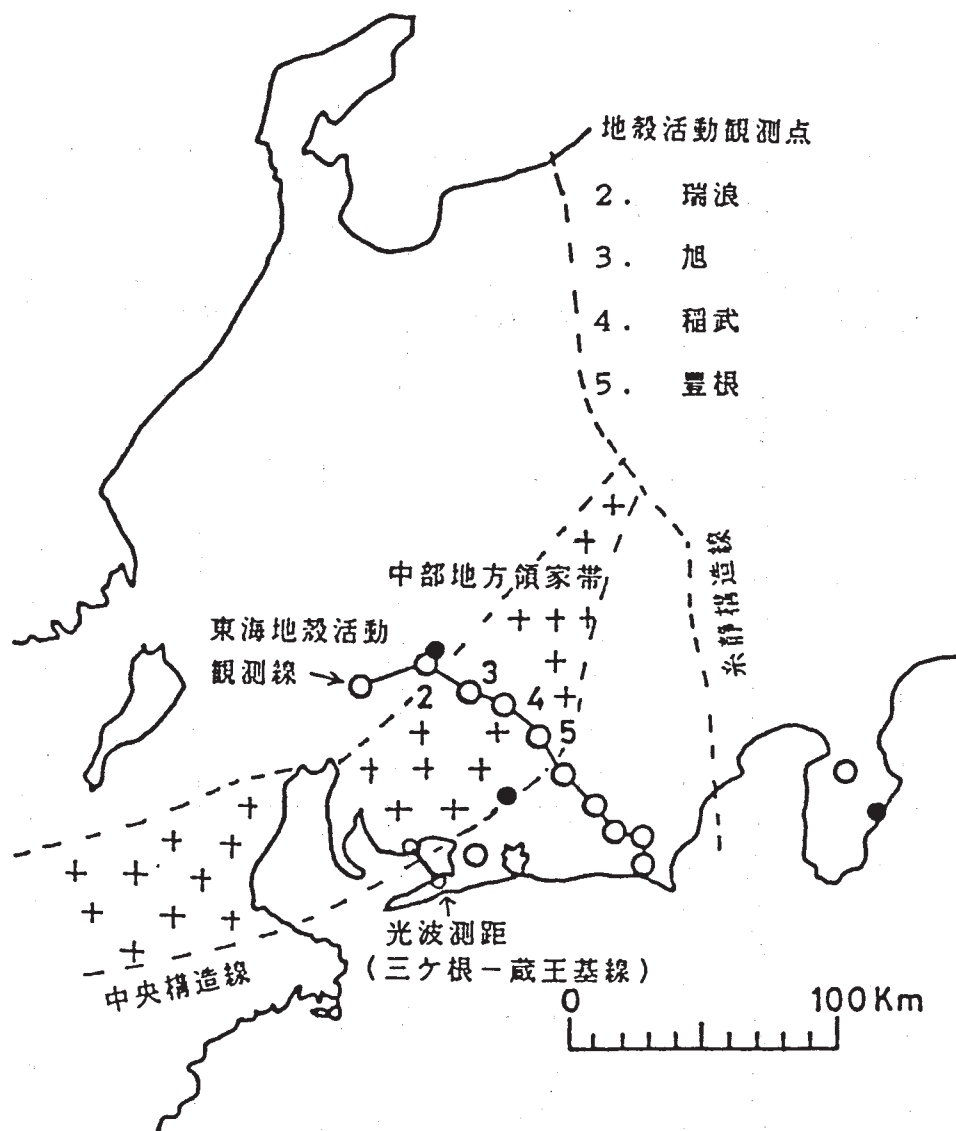
5 - 9 東海地域における地殻変動観測：瑞浪観測点・石英管伸縮計による歪観測（1984 - 87）

Crustal Movement Observation in the Tokai District: Observation of Crustal Strain
by Silica Tube Strainmeters at Mizunami Observatory (1984 - 1987)

名古屋大学理学部
School of Science, Nagoya University

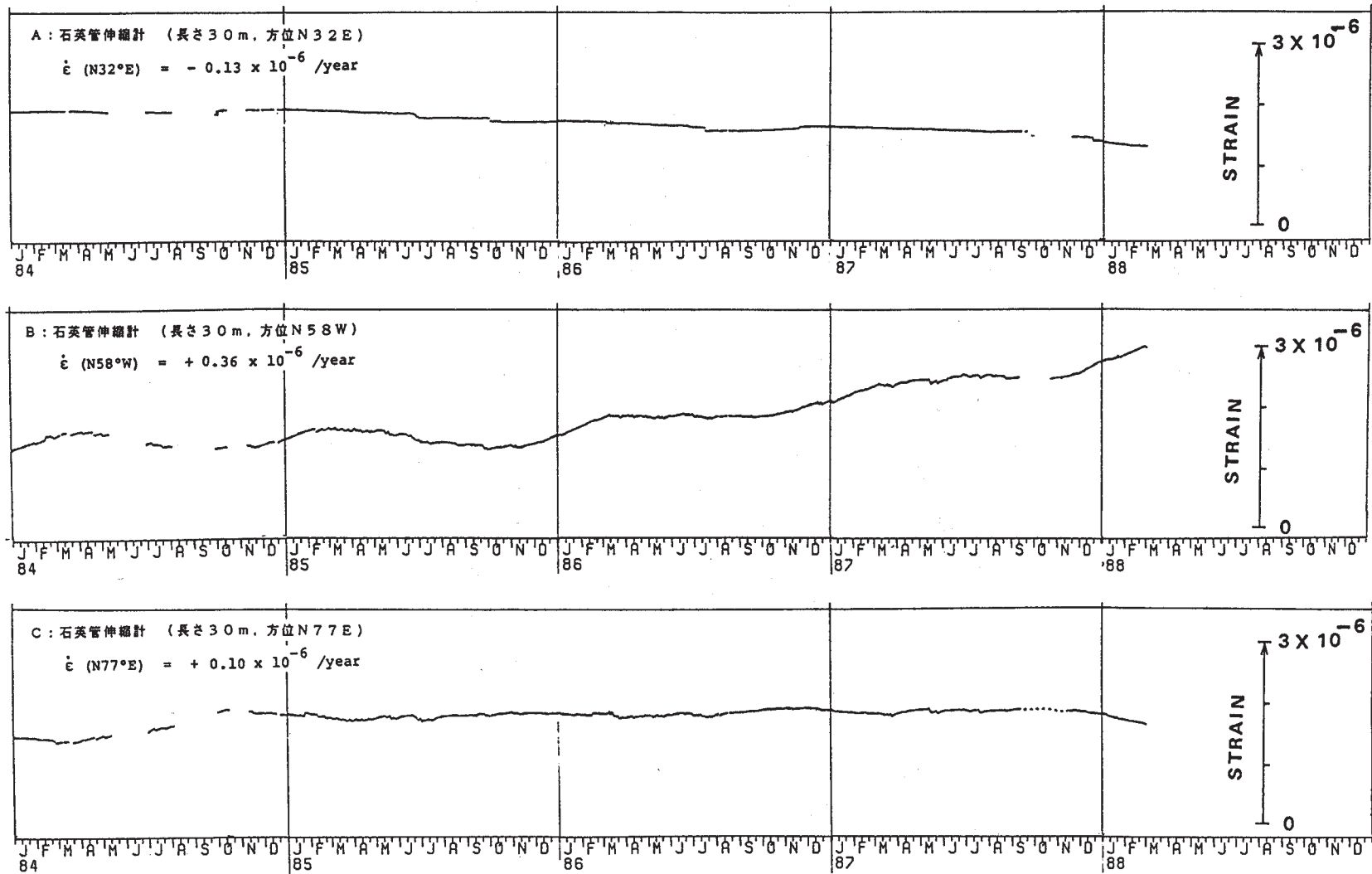
名古屋大学では1982年から86年にかけて東海地域から岐阜県東部に至る線上に地殻変動観測点列（東海地殻活動窺測線）を設置した（第1図）。本報告では、岐阜県東部に位置する瑞浪観測点について石英管伸縮計による歪連続観測の結果とその記録の特徴を報告する。

- 1) 本観測を開始してまもなく、1984年9月には観測点より震央距離約60kmのところ長野県西部地震（ $M = 6.8$ ）が発生した。しかしながら、地震発生に関連した前兆現象は明瞭には認められない。
- 2) 北西方向の歪の変動パターン（第2図B）において、1985 - 86年に変化がみとめられる。
- 3) 過去4年間の累積歪の結果は、その主軸が北西方向に伸びを示す（第3図）。この傾向は、中部地方の広域的な地殻累積歪の結果（国土地理院・測地測量結果）、すなわち、東西もしくは北西 - 南東の主圧縮軸が卓越する傾向と非調和的である。



第1図 東海地殻活動観測線の観測点配置図

Fig. 1 Location of the stations for crustal movement in the Tokai district.



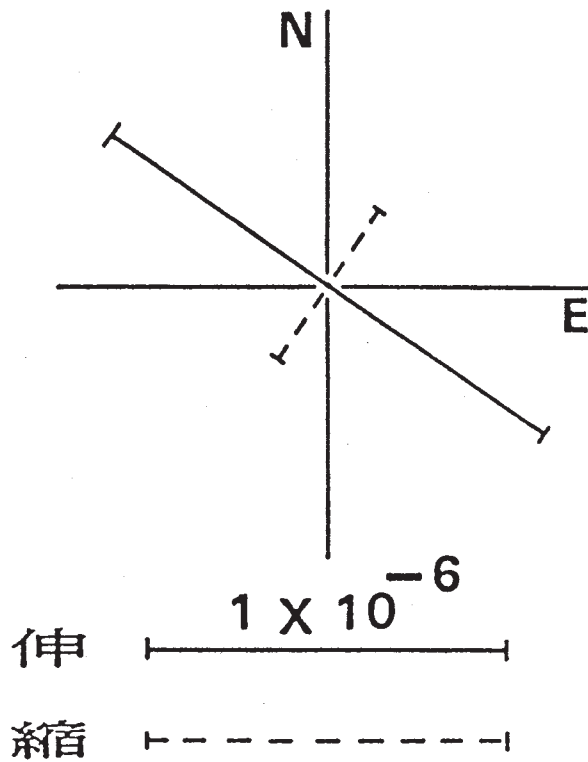
第2図 瑞浪観測点における3成分地殻水平歪の時間的变化

Fig. 2 Three components strains at the Mizunami observatory.

歪の主軸 (1988-84)

$$\gamma_{\max} = 1.45 \times 10^{-6} \quad (\text{N}56^{\circ}\text{W})$$

$$\gamma_{\min} = -0.53 \times 10^{-6} \quad (\text{N}34^{\circ}\text{E})$$



第3図 地殻水平歪の主軸

Fig. 3 Principal axis of strain at the Mizunami observatory.